

第31回 番組審議会議事録

1. 開催日時 平成28年4月6日
2. 開催場所 Y2ぷらざ 3階研修室
3. 委員出席 委員総数 6名
出席委員数 6名

出席委員	鈴木 信好	委員長
	岡部 えり子	副委員長
	土田 百合子	委員
	佐々木 隆一	委員
	橋本 知加子	委員
	佐藤 誠一	委員

◎横手コミュニティ FM 放送株式会社

出席者 8名

奥山 和彦	代表取締役社長
高橋 雅博	支援室長
小笠原 豊	放送局長／番組審議会事務局長
柴田 優子	編成制作部長
木匠 一公	支援室長補佐
高橋 瀬菜	支援室
高橋 一親	支援室
細川 正実	営業部／番組審議会事務局

(1) 4月課題審議 審議番組『被災地から聞く 備える防災』
(3月11日金曜日 午後2時～午後3時 放送分)

(2) その他

4. 審議事項

(1) ①審議番組『被災地から聞く 備える防災』について

【岡部副委員長】

- ・一時間の番組でしたが、あっという間だった。それだけ構成や内容が充実していた。
- ・後半で地元の企業のインタビューがあり、自分事として最後に考えられる内容になっていたのが素晴らしい。
- ・国語の先生の俳句の部分の表現が難しく、説明のあとにもう一回聞くくらいだと理解度が増せたと思う。
- ・五年前のことを振り返るタイミングとして、とても良く出来た番組だった。

【土田委員】

- ・今回は被災地の状況を伝えるのは大事なことで、風化させないということで区切りのときには、またぜひこのような番組を制作してほしい。
- ・最初の番組の流れの説明は良かったが、協力いただいた業者の名前を言っていたが、なぜ冒頭だったのか？
- ・釜石市長に現在の状況を伺えたのが、FMならではのことに感じた。現在も仮設で暮らしていることや、子どもたちがスポーツで頑張っていること 今年度と来年度で市全体の完成を目指していることなど一步一步普及復興が進んでいることを、直接ラジオを通して現状がわかったのは有意義だし、そこに私たちも協力していかなければならないと感じた。
- ・特に釜石に派遣されている職員からも現在の状況を伺えてよかった。
- ・これからも釜石市との交流を大事にしながらも、これからの自らの協力についても関心を深めていきたい。
- ・進行の声が変わっていくが、絞られた人数の中でまとめていく方がよかった。
- ・横手市から災害で一番大事なのは、災害情報の伝達であるということだったので FM 告知ラジオの使命について考えていきたい。

【佐々木委員】

- ・相手にマイクを渡して、ずっと話してもらってありがとうございました、はい次の方というのは、興味を持って聴く人以外は飽きてしまう。(関係者や釜石に特別な思い入れがあるひと以外) 番組を作る人としては大変かもしれないが、綿密な打ち合わせを行って、「こういったことに関

してはどうでしょうか？で相手がしゃべる。また「こういったことに関してはどうでしょうか？」またしゃべる、シークエンスごとにおいて Q&A 方式で作ったら関係ない人でも興味を持てるのでは？

- ・原田さんのガスの部分は、そういう展開になっていたの聴きやすかったし上手だった。
- ・内容であれっ？とおもったのは 29 年度末にハザードマップを作成するという部分。そんな先の話でいいのかと思った。

【佐藤委員】

- ・第一印象は番組の構成・内容とも重みがあるというのが素直な気持ち。
- ・あれから五年が経ったんだなと思った。中心地は 100%ということでしたが、これから先、何十年とかかる真の復興への道のりの長さを思い知らされた。
- ・釜石市長の話がすべてを物語っていたが、なかでも震災後の子供の心の成長や、甲子園出場やワールドカップ、スタジアム建設の賛否等々、考えさせられる問題もたくさんあると知ることができた。
- ・未来の子供たちには、震災の恐ろしさはもちろん、横手市いかに助け合いの心で手を差し伸べてきたか、助け合いの心もつなげていけたらいい。それを伝えるのが横手かまくら FM の公共電波としての務めでもあるかと思う。
- ・ライフラインの復興、電気・ガス・水道各社の話は大変なんだと、わかりやすくよく理解することができた。
- ・重い内容でしたが、横手かまくら FM の役割を最大限に発揮していただきたい。

【菊地委員】

- ・最初に全体像、最後にまとめという構成。
- ・印象に残ったのは、釜石高校の先生の「竜宮」という命が繋がっているという思いを伝えなかったという部分で、よく伝わってきた。
- ・構成の部分で、佐々木委員からもありましたが、リレー形式で放送するとき、その方の話す意図が違って来るわけで、関心があるものであれば聴くが、そうでなければ感覚的に鈍ってくる。
- ・持っていく方向をあらかじめ決めているのであれば、全体としてのまとまりがあったのではないか。

【鈴木委員長】

- ・当時を思い出して泣きそうになった。
- ・被災したときにどういう状態か、その後復興するための時間がかかってる今の状態、だからみんな備えなければならないという流れで構成されていていいなと思った。
- ・備える防災の方を、例えば 3 か月に 1 回くらい繰り返しいろんな立場から放送する機会を設け

てはどうか？

- ・音楽が入ってないのが、浮かれてなくて良かった。

《会社側からの回答》

【柴田制作編成部長】

- ・これまでの震災特番では防災に重点を置いてきたが、今年度は5年目という節目の年でもあるので被災地に行って収録してきた。
- ・急きょ差し込みもあり、ボリュームが増えてしまったため、このようなぎゅっとした構成になってしまった。
- ・照井先生には、たくさんお話しいただきましたが放送時間が限られていたのでカットした部分もあった。たしかに二回繰り返し伝えた方が良かった。編集してはいけない部分と捉えてしっかり作っていききたい。
- ・冒頭に協力団体を取り上げたのは、なぜ今回釜石を取り上げたのかを市民の皆様に伝えたいという気持ちがあったので、すべてではないがこちらでわかる範囲で放送に載せた。
- ・インタビューの人数の部分は、かまくら FM が出来た年に起きた震災という事もあり、ここで関わっている FM のスタッフ全員にみんなで初心を思い出して一緒にやっというのもあり、人数が多かった。確かに聴きづらかったかなと思っている。
- ・今回はあえて、インタビューする方にお話ししていただくという構成をとった。自分が話すのではなく、自分が話すことで相手にいかにたくさんの情報を話してもらえるのかというのを、この番組では意識した。それで興味が持てないひともいたかもしれないのは残念。
- ・制作者の思いとしては、そこに住む方や関わった方の思いを直接本人からお話ししてもらうことを演出として意図して作った。それを理解してもらえなかったとすれば、自分の力量不足。これから、そういう形でも聴いてもらえるような作り方をしたい。
- ・伝えたかった部分が伝わっていて、嬉しかった。
- ・コーディネートのおもしろさについては、内容やどんな質問であれば心を開いて話してくれるか、これは日常の放送でのインタビューでも必要な部分でもあるので能力を高めていきたい。
- ・毎週1回防災についてのコーナーを設けているので、こちらでも聴いていただければと思う。

【佐々木委員】

- ・今、お話ししていただいた思いや意図を番組内に入れてもらえればと残念に思った。

【柴田制作編成部長】

- ・今回、最初のナレーションを他のスタッフに任せたが、自分自身が今の話を交えて話せばよかったかなと思う。

【小笠原放送局長】

- ・この FM は震災の年に開局して、さいがい FM の放送も行った。FM の中でも初心を忘れないよ

うに、風化されないように防災特番も今後も毎年続けていきたい。

(1) ②その他の放送番組について

【佐々木委員】

- ・一般のリッスナーから番組が一本調子だという意見をいただいた。

5. 意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページ（URL）への掲載

公表の案内 議事の概要

公表年月日 平成 28 年 4 月 30 日

6. 次回審議番組

「グッドモーニングよこて」（毎週月～木曜日 午前 7 時から放送）

7. 備考

5 月は休会とし、次回は 6 月に開催予定。